

C S だより

community school

文責：菊岡 文枝
(CS ディレクター)

初秋の候、保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動にご協力いただき、まことにありがとうございます。6月の後半には4年生の社会科見学や6年生のトートバッグ制作、7月には6月に引き続き6年生のトートバッグ制作や自習の見守りなどに多くのボランティアの皆様のご協力をいただきました。また、4年生は須津の農業改善事業について妙蓮寺のご住職に話を聞くことができました。

6月・7月・8月活動記

6年生 トートバッグを作りました

6月9日から7月15日まで6年生がトートバッグ制作のためミシンを使いました。5年生の時にもミシンを使いましたが、普段使う機会が少ないと使い方を忘れてしまうようです。そこで保護者ボランティアの皆さんと一緒に地域の手芸が得意な皆さんにボランティアとして参加してもらいました。今年は6月から気温が高くて、エアコンのない家庭科室は暑いのでエアコンのあるパソコン室を利用しました。子供たちはボランティアの皆さんにも教えてもらいながらトートバッグを仕上げていました。

4年生「須津のまちづくり」をテーマに話を聞きました

6月25日に妙蓮寺の住職 則武海源さんと副住職の則武海信さんから須津の農業改善事業について話していただきました。

お茶の需要が減り、少子高齢化で農家を継ぐ人が減ったことから、茶畑の耕作放棄地が増加しました。そこで10年前から富士岳南農場をたちあげレモンの栽培を始めました。最初は「農業をやったことがないのにできるのか」と言われたり、丸1日で200本のレモンの苗木が鹿に食べられたこともあって、失敗続きだったそうです。でも諦めずに続けたことで今では多くの人たちに協力してもらっているそうです。

放置されたお茶の木は4mくらいの高さに伸びるそうです。その木をチップにして牛糞と混ぜ肥料として使い、レモンの花の受粉のためにミツバチを使い蜂蜜も作っています。



農場は地域の皆さんの働く場にもなっています。

須津の農業改善事業を通してより住みやすい須津地区をめざし、地域の人たちが力を合わせていくことや諦めないことの大切をお話ししてもらいました。蜂蜜の味見もさせてもらいました。10月には畑の作業の見学に行く予定です。



「須津千人塚古墳」の整備事業が完了しオープンします

11月1日（土）に今整備中の千人塚古墳のオープニングイベントが行われます。小学生とすみれ会の皆さんが合唱を披露したり、中学生が自作の劇を演じることになっています。「須津まちづくりセンター」での練習の様子を見学してきました。

中学生の劇の内容は、メンバーの数人が小学校6年生の時の古墳学習で考えたものです。古墳時代にタイムスリップした少年が古墳時代の人たちと交流し、古墳時代を知るという内容になっています。合唱曲は中里1丁目の石川さんが作曲しました。当日は須津出身の歌手ゆかのさんが、小学生やすみれ会の皆さんと一緒に歌うことになっています。文化祭の前日になっていますがぜひ見に行ってください。

